

一勝地小だより

第9号

R3.12.24発行

文責：梅本 和高

<https://es.higo.ed.jp/ishouchi/>



よい年をお迎えください

あっという間でしたが、2学期も今日が最後になりました。子供たちは、学習面・生活面など様々な体験を通して、たくさん大切なことを学び、大きく成長してくれました。本人たちの努力もありますが、保護者の皆様からいただきましたご理解とご協力によるところが大きかったと感じます。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



さて、いよいよ明日から冬休みが始まります。冬休みの間には日本の伝統的な行事や文化に触れる機会がたくさんあります。「伝統文化や社会と関わる学習」の絶好の機会となります。大掃除・年末年始準備等、家事を手伝わせることは、子供たちに働くことの大切さや喜びを感じ取らせるとともに、家族の一員としての自覚をもたせることにもつながります。

また、来客への対応などは、社会性を養う場とも言えます。親子のふれあいを十分に深め、心に残る冬休みになることを願っています。よい年をお迎えください。

がんばった持久走大会

12月8日水曜日に渡小学校と合同で村内持久走大会を行いました。子供たちは、1・2年生が約1km、3・4年生が1.5km、5・6年生が2kmのコースを走りました。球磨村役場の地下翔太さんには、全ての競技で、伴走をしていただきました。ありがとうございました。

当日は、多くの保護者の方々、地域の方々に応援に来ていただき、ありがとうございました。子供たちも、みなさんの応援が大変励みになったようで、練習のときよりタイムを縮める子が出るなど、その気持ちの入り方は格段に違ったようです。

走るのが苦手な子（私もそうでしたが）にとっては、決して楽しい競技ではありませんし、途中のきつさを考えると「走りたくない」と考える子も多いと思います。でも、その気持ちを我慢して走るところに、持久走のよさがあると考えています。遅くとも最後まで一生懸命走る子供の姿に思わず大きな声で応援し、感動したのは私だけではないと思います。みんな、本当によくがんばって走りました。



思いやりの気持ち、相手を理解する大切さ

～人権月間に取り組みました～

日本では、毎年12月10日を最終日とする1週間を「人権週間」と定めており、その期間中、人権に関わる様々な取組が行われています。本校でも、12月を人権月間と位置付けて取り組み、人権に関わる授業や、各学級の人権目標の振り返りを行いました。その後、環境運営委員が中心となり、各学年のよいところを見付ける活動を行いました。

私は、相田みつをさんの「セトモノ」という詩を題材にした絵本「やわらかければだいじょうぶ」を紹介しました。やわらかい心、つまり相手を思いやる心をもつことで、よりよい関係をつくることができるという話です。



子供たちのすこやかな育ちと学びのために

人権月間の取組として、なごみ2組担任尾前 志穂 先生に、朝の活動の時間に、人権教育と特別支援教育の視点で、子供たちに話をしてもらいました。

お話の内容は以下のとおりです。

車には、乗用車、消防車、バス、クレーン車、救急車等いろいろな種類があることから話が始まりました。

次に、火事が起きたときは、どんな車が来るかを尋ねられると、子供たちは「消防車」「救急車」と応えました。「では、火事の現場に大型バスが来たらどうでしょう？」と尾前先生から質問がありました。バスは役に立たないのでしょうか？いいえ、避難してきた人を避難所に送ることができます。バスにはバスのよいところを活かすことができます。

人間も、一人一人違って、得意なこと、苦手なことは様々です。また、心の中、泣きたいとき、怒りたいときも違います。だから、友達はどうしたのかなと想像すること、正しく知ることが大切です。

そして、心の成長を助けるところがなごみ学級なんだということ、なごみ学級のことも正しく知ってくださいというお話でした。

お互いを正しく知ることの大切さを改めて確認することができました。

